阿久遺跡（第８次発掘調査）

平成７年度送電線 JR信濃境分岐線No.1～No.6間
鉄塔建て替え工事に伴う緊急発掘調査報告書

長野県原村教育委員会

表紙地図 10,000 分の 1　○印が阿久遺跡

序

本書は、中部電力株式会社の送電線JR信濃境分岐線№1～№6間鉄塔建て替え工事に伴って原村教育委員会が今年度実施した発掘調査報告書です。

阿久遺跡は、昭和50～53年度に中央自動車道建設に伴う発掘調査で、縄文時代前期の大集落跡が露呈し「縄文時代観の転換」といわれました。昭和54年7月2日には、村民の熱意と関係者各位のご理解とご協力で国の史跡に指定されました。その後、原村は国と県の補助金交付を受け公有化を進めてまいりました。

発掘調査は、国史跡から外れた遺跡外縁部の限られた狭い範囲でありましたが、小竪穴2基と僅かな縄文時代の土器破片が発見されました。阿久遺跡を研究するうえにおいて好資料になるものと思います。

発掘調査にあたり、中部電力株式会社長野支店の皆さまのご理解・ご協力、長野県教育委員会のご指導をはじめ発掘調査に係る多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

発掘現場では、炎天下でご苦労された作業員の皆様により、失われていく貴重な文化財を記録に残すことができました。また、発掘調査報告書刊行にいたる過程において、お世話いただいた関係各位にたいし厚くお礼申しあげます。

平成8年3月

原村教育委員会

教育長　大舘　　宏

例　　言

1　本報告は、平成７年度送電線JR信濃境分岐線№１～№６間鉄塔建て替え工事に伴い実施した、長野県諏訪郡原村柏木に所在する阿久遺跡の第８次緊急発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、原村教育委員会が中部電力株式会社長野支店の委託を受け、平成７年７月25日から29日にかけて実施した。整理作業は、平成７年12月23日から平成８年２月15日まで行った。

3　現場における記録と写真撮影は石川美樹、執筆は平出一治が行った。

4　本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係の資料には、11の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、ご指導・ご助言をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げる次第である。

目　　次

例言
目次
Ⅰ　発掘調査に至る経過……1
Ⅱ　発掘調査の経過……1
Ⅲ　遺跡の位置と現状……2
Ⅳ　調査方法と層序……4
Ⅴ　遺構と遺物……6
Ⅵ　まとめ……7
報告書抄録
調査組織

Ⅰ　発掘調査に至る経過

中部電力株式会社では、送電線下の立ち木の伐採など管理に問題が多く、数年前から鉄塔の高上げ計画を進めてきた中で遺跡の照会があった。村内で遺跡内に建てられている鉄塔は、阿久遺跡に２基、居沢尾根遺跡に１基である。

阿久遺跡の鉄塔は、国の史跡指定地内に１基、史跡から外れた北側に１基である。

保護については、長野県教育委員会の指導をいただき中部電力株式会社長野支店と協議を進めてきた。史跡指定地内の１基は開発に係る現状変更が困難なため撤去し、北側の１基は「記録保存やむなき」との結論に達し、平成７年度に緊急発掘調査を実施し記録保存をはかる方向で同意をみることができた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は中部電力株式会社から記録保存に係る委託を受け、平成７年７月27日から29日に緊急発掘調査を実施した。

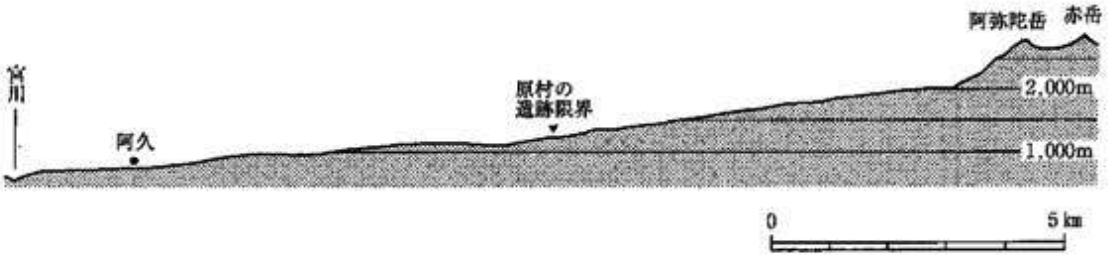
Ⅱ　発掘調査の経過

平成７年７月20日　発掘調査の準備をはじめる。

25日　調査団長あいさつの後、機材を搬入する。基準杭の打設、グリッド設定を行う。引続き人力でグリッド発掘をはじめる。

26日　引続きグリッド発掘を行う。H－10グリッドで小竪穴を検出する。G－11・H－11グリッドの調査をはじめる。

27日　小竪穴の検出作業を進め、小竪穴2003の検出写真撮影、精査、土層観察を行う。



第１図　原村域の地形断面模式図（宮川―阿久遺跡―赤岳ライン）

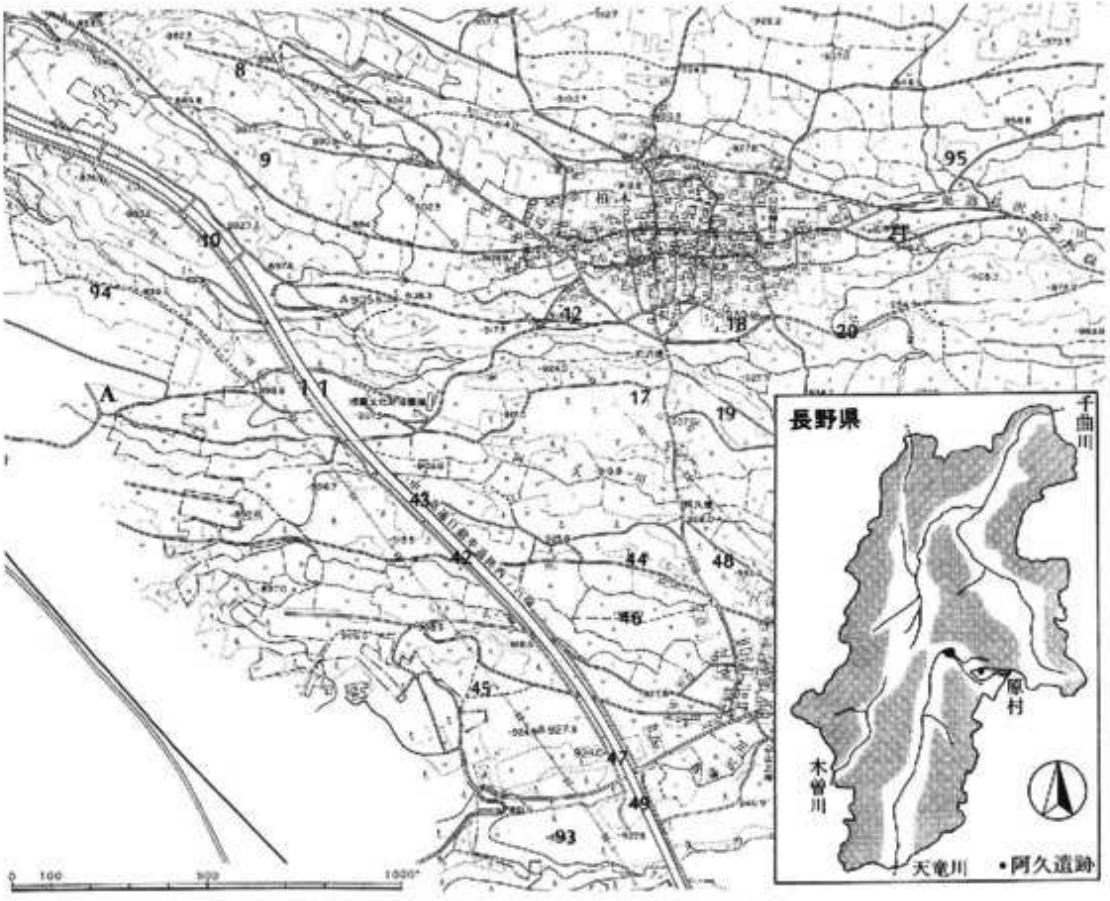
28日　小竪穴2004の検出写真撮影、精査、土層観察を行う。小竪穴2003の全景写真撮影、実測を行う。

B－13・B－16グリッド発掘を行うが遺物・遺構の発見がないため片付けをはじめる。

29日　片付けを行い調査は終了する。

Ⅲ　遺跡の位置と現状

阿久遺跡（原村遺跡番号11）は、長野県諏訪郡原村柏木区の南西方約500mに位置している。このあたりは八ケ岳西麓にあたり、東西に細長く発達した大小様々の尾根がみられる。遺跡の多くはこのような尾根上から南斜面に存在しているが、周辺には第２図および表１に示したように、縄文時代と平安時代の大小様々な遺跡が分布しているがその密度は極めて高い。遺跡分布図および一覧表の番号は原村遺跡番号であり、阿久尻遺跡は茅野市



第２図　阿久遺跡と付近の遺跡（１：20,000）

であるため「A」とした。

本遺跡は、八ケ岳から流下する阿久川と大早川によって南と北を浸食された東西に細長い尾根上から緩やかな南斜面に立地している。南の阿久川側は比較的なだらかな傾斜であるが、北の大早川側はきつい斜面になる。調査地点付近の斜度はきつく急激に大早川に落込んでいる。西に隣接する茅野市阿久尻遺跡の先端は、フォッサマグナの西縁である糸魚川―静岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られている。地目は山林・村道・中央自動車道で標高は895～906mで、調査地点は国史跡から外れた北西外縁部にあたる。

今までに行われた発掘調査は７次におよぶが、大まかには次の通りである。

第１～４次調査は、昭和50～54年度に長野県教育委員会が中央自動車道建設に先立ち実施した。上層からは立石・列石を中心とした径120mほどの環状集石群、下層からは方形柱列群を伴う馬蹄形集落跡が露呈した。それらは従来の考古学知見をこえる極めて重要なもので、長野県考古学会を中心に保存運動が持ち上がり、村民からも保存の声が聞かれるようになった。遺跡の保存か、中央道の早期開通かで国会・県会でも取り上げられ、最終

表１　阿久遺跡と付近の遺跡一覧表

○は遺物発見　◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文 草	縄文 早	縄文 前	縄文 中	縄文 後	縄文 晩	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
8	比丘尼原北			○	○							○			
9	比丘尼原					○						○			
10	柏木南	○			○	◎									昭和51年度発掘
11	**阿久**		○	○	◎	◎	○					◎			**国史跡　昭和50～53・平成５・７年度発掘**
12	前沢					○						○		○	昭和55・61年度発掘
17	臼ヶ原			○		○						○			昭和53年度発掘
18	前尾根西					○									昭和51年一部破壊
19	南平					○									
20	前尾根					◎	◎					○			昭和44・52・59年度発掘
21	上居沢尾根					○	○							○	平成４年度発掘
42	居沢尾根					◎	○					◎			昭和50～52・56年度発掘
43	中阿久					○								○	昭和51年度発掘
44	原山					◎						○			昭和50年一部破壊
45	広原日向	○				○	○					○			昭和58年度発掘
46	宿尻	○		○		◎	○					◎			平成５・６年度発掘
47	ヲシキ			○	○	○						◎			昭和51年度発掘
48	楡の木					○									昭和53年一部破壊
49	大石			○	◎	◎						◎		○	昭和50・平成４・５年度発掘
93	大石西				○	○						○			平成３年度発掘
94	下原山茂佐久保					○									平成２・３年度発掘
95	土井平											◎			平成４年度発掘
A	阿久尻			○	◎	◎						◎			茅野市　平成２・３年度発掘

的には中央自動車道をはじめ関連する農道などの計画を大幅に変更したうえで、検出した遺構は充分な保護を講じたうえで埋め戻し、埋没保存がなされている。

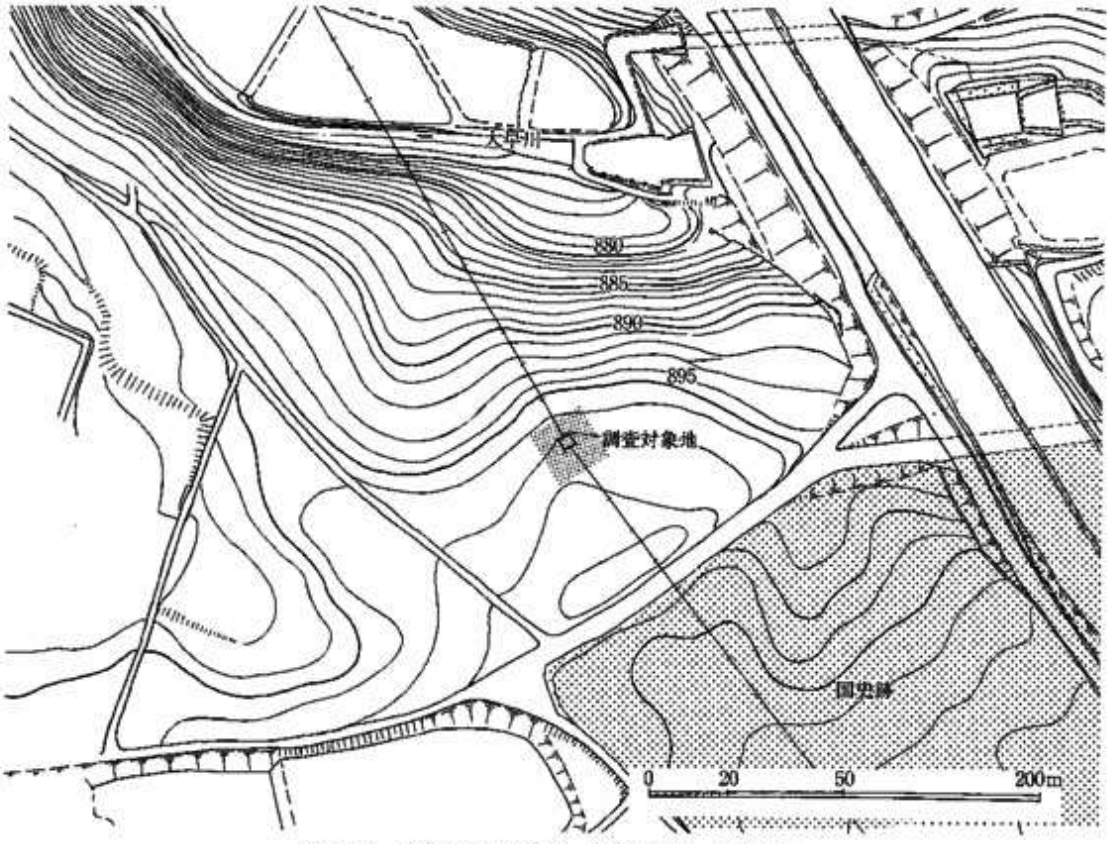
第５次調査は、昭和53年度に行った重要遺跡範囲確認調査であり、遺跡の範囲を確定したうえで55,940.97㎡が昭和54年７月２日に国史跡に指定された。

第６次調査は、昭和53年度に行ったが、遺跡の保存が決まり変更の生じた村道改良事業に先立つもので、縄文時代中期中葉の竪穴住居址１軒と集石２基を検出した。

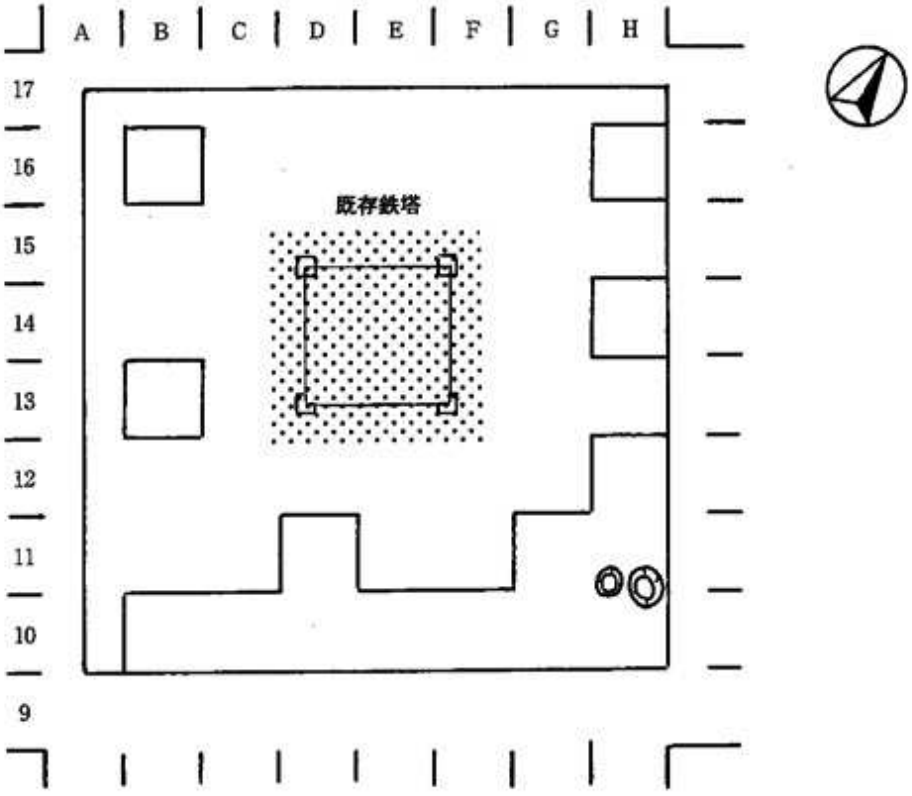
第７次調査は、平成５年度に遺跡の東側外縁部で行った範囲確認調査で、縄文時代中期と後期の僅かな土器破片を発見した。

Ⅳ　調査方法と層序

調査の対象は、第３図に示した鉄塔の建て替え予定地15×15m（225㎡）で、国史跡範囲から外れた北側である。すでに伐採は終了していたが、第４図の通り中央33㎡には既存の鉄塔が建っている。鉄塔の基礎は一辺1.5mの方形のコンクリートで深さは2.45mである。



第３図　発掘調査区域図・地形図（１：2,000）



第４図　グリッド図・遺構配置図（１：200）

また、鉄塔の脚部から避雷針アースが外側の地表下30cmに埋設してあるとのことで、広範囲におよぶ攪乱が予想された。

建て替え予定地に軸を合わせた２×２ｍのグリッドを設定した。送電線の真下という特殊な環境で磁北が測定できないため、鉄塔建て替えの図面から真北を導きだした。グリッドの軸は真北より30度西にふれている。文中では便宜的なものとしてグリッド等の方向は東西南北で標記した。個々のグリッドは第４図に示したように、東西方向は西からアルファベッドのＡ～Ｈ、南北方向は南から算用数字の10～17をあて、アルファベット算用数字の順で呼んでいる。

調査は、人力でグリッド発掘を行い遺物と遺構の検出に勤めた。掘り下げは原則として層位別にローム層上面まで行った。調査面積は15グリッド60㎡である。

測量は、予め打設した基準杭を基準にしたやり方方式による。

調査地点の層序は、ローム層上面までの深さは南と北で違いがみられた。南では48～59cmを計るが、北は10～15cmと浅くなる。表土にローム粒が混じるが前記した鉄塔の基礎工事と避雷針のアース埋設によるものと思われる。

土層は、E－10グリッド南壁を第Ⅰ層～第Ⅳ層に大別した色調の変化に乏しかった。大まかな観察結果を記してみたい。

第Ⅰ層　ローム粒が混じる黒褐色土。17cm。表土層でローム粒が多量に混じる。ローム粒は既存の鉄塔建設工事等による攪乱と思われが、縄文土器破片は本層から出土した。

第Ⅱ層　黒色土。30cm。第Ⅰ層よりしまっている。

第Ⅲ層　ローム漸移層。

第Ⅳ層　ソフトローム層

Ⅴ　遺構と遺物

遺構は、小竪穴２基を検出したが遺物の伴出はない。小竪穴番号は中央自動車道用地内と区別する意味で2003と2004を使用した。小竪穴の調査は検出した平面で２分割し、半分の掘り下げを行い埋土の観察をした後に残り半分を掘り下げた。ロームマウンドを検出したが風倒木跡と考え精査していない。

遺物は、遺構外から小さな土器破片２点が出土しただけである。

１　小竪穴

小竪穴2003　（第４・５図）

H－10・11グリッドで検出した。

ソフトロームからロームに掘り込まれていた。埋土は色調の変化に乏しくローム粒を含む茶褐色土の単層である。

安山岩の自然礫が検出面から４点、埋土中から１点出土したが、検出面出土の大きな平板状のものは壁際近くに立てられていたようである。性格については不明である。

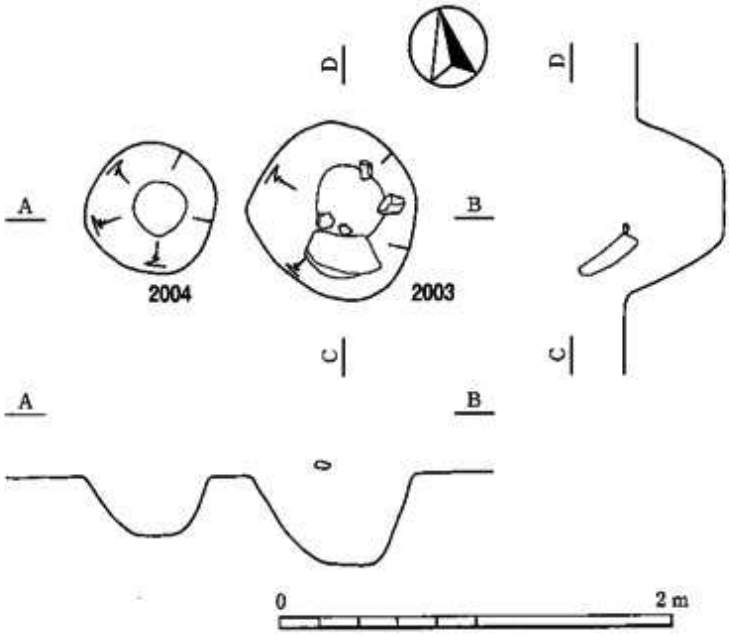
平面規模は92×85cmの不整円形で、壁の立ち上がりはなだらかなうえに不明瞭で底面は丸く深さは46cmである。

出土した遺物は皆無で、帰属時期・性格等は不明である。

小竪穴2004　（第４・５図）

H－10・11グリッドで検出した。小竪穴2003の西側に隣接し、ロームマウンドと重複する。新旧関係は本址が新しくロームマウンドが旧い。

地山のロームとマウンド状ロームとの間層にあたる黒色土に掘り込まれていた。埋土は



第５図　小竪穴2003・2004実測図（１：40）

色調の変化に乏しく黒褐色土の単層であるが不明瞭な点が多い。平面プランは確認できたが手さぐりの精査で積極的に小竪穴と認定できる状態ではなかった。

平面規模は67×69cmの円形で、壁は不明瞭なため明確にできなかったが舟底状の丸底と思われ深さは30cmである。

出土した遺物は皆無で、帰属時期・性格等は不明である。

2　遺構外出土遺物

遺構に伴わない遺物は、小さな土器破片２点が出土したが、調査員の不手際で紛失してしまい図示できなかった。

Ⅵ　まとめ

本調査地点は、昭和53年度に実施した重要遺跡範囲確認緊急調査（第５次発掘調査）で縄文時代前期と後期の僅かな土器破片は出土したが、居住区域から外れた遺跡の北側外縁部と考えた所で、当初より数多い遺構の検出は期待できなかった。

小竪穴２基を検出したが、伴出遺物はなく帰属時期と性格は不明であるが、小竪穴2003は昭和51～53年度調査で「Ａ型土壙①」に分類した「土壙の上面に石が立つ、いわゆる立石をもつ土壙である。立石をその下部で小礫によって支えた例があるので、それらの立石は主として壁際に直立し、石の上半は当時の地表面上に出ていたと推定できる。(後略)」に類似するが、検出位置が離れているうえに調査範囲が狭く詳しいことはわからない。

調査地点は緩やかに北傾斜し、その北数メートル先では急激に大早川に落込んでいる。したがって調査地点付近の平坦部には密度は薄くなるが小竪穴などの埋没が考えられる。

限られた狭い範囲の調査であったが、北側外縁部における様相の一端をうかがうことができたといえよう。

最後に、関係者各位ならびに調査にたずさわった皆さまに厚く御礼申し上げる次第である。

参考文献

197603　長野県教育委員会『昭和50年度　長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書　茅野市・原村その１、富士見町その２』

197903　原村教育委員会『原村の文化財１　阿久遺跡（第５次発掘調査）　重要遺跡範囲確認緊急調査報告書』

198203　長野県教育委員会『昭和51・52・53年度　長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書　原村その５』

198303　長野県教育委員会『昭和54年度　八ケ岳西南麓遺跡群分布調査報告書』

198507　原村役場『原村誌　上巻』

199103　長野県教育委員会「県営金沢工業団地造成計画にかかる下原山茂佐久保遺跡の詳細分布調査」『リゾート等開発地域内の埋蔵文化財分布調査報告書』

1991　『県営金沢工業団地造成計画にかかる下原山茂佐久保遺跡の調査の概要』

199303　茅野市教育委員会『阿久尻遺跡　県営金沢工業団地建設に伴う造成工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』

199403　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財26　阿久遺跡（第７次発掘調査）　平成５年度範囲確認調査報告書』

報告書抄録

ふりがな	あきゅういせき
書名	阿久遺跡（第8次発掘調査）
副書名	平成7年度送電線JR信濃境分岐線No.1～No.6間鉄塔建て替え工事に伴う緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	原村の埋蔵文化財
シリーズ番号	36
編著者名	平出　一治
編集機関	原村教育委員会
所在地	〒391-01　長野県諏訪郡原村6549番地1　　TEL　0266-79-2111
発行年月日	西暦　1996年03月

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
阿久（あきゅう）	長野県諏訪郡原村柏木（ながのけんすわぐんはらむらかしわぎ）	3637	11	35度56分39秒	138度11分33秒	19950725～19950729	60.0	送電線JR信濃境分岐線No.1～No.6間鉄塔建て替え工事に伴う緊急発掘調査報告書

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
阿久	集落跡	縄文時代 時代不詳	小竪穴　2基	縄文時代 土器破片	

調査組織

阿久遺跡第８次発掘調査団名簿

調　査　団

団　　長	大舘　　宏（原村教育委員会教育長）
調査担当者	平出　一治
調　査　員	石川　美樹
調査参加者	小林　ミサ　　清水みち子　　西沢　寛人　　平林　途御

事　務　局

原村教育委員会事務局

教　育　長	大舘　　宏
教育次長	平林今朝二
庶務係長	大口美代子
	宮坂　道彦　　伊藤　佳江　　平出　一治　　平林とし美　　石川　美樹

原村の埋蔵文化財36

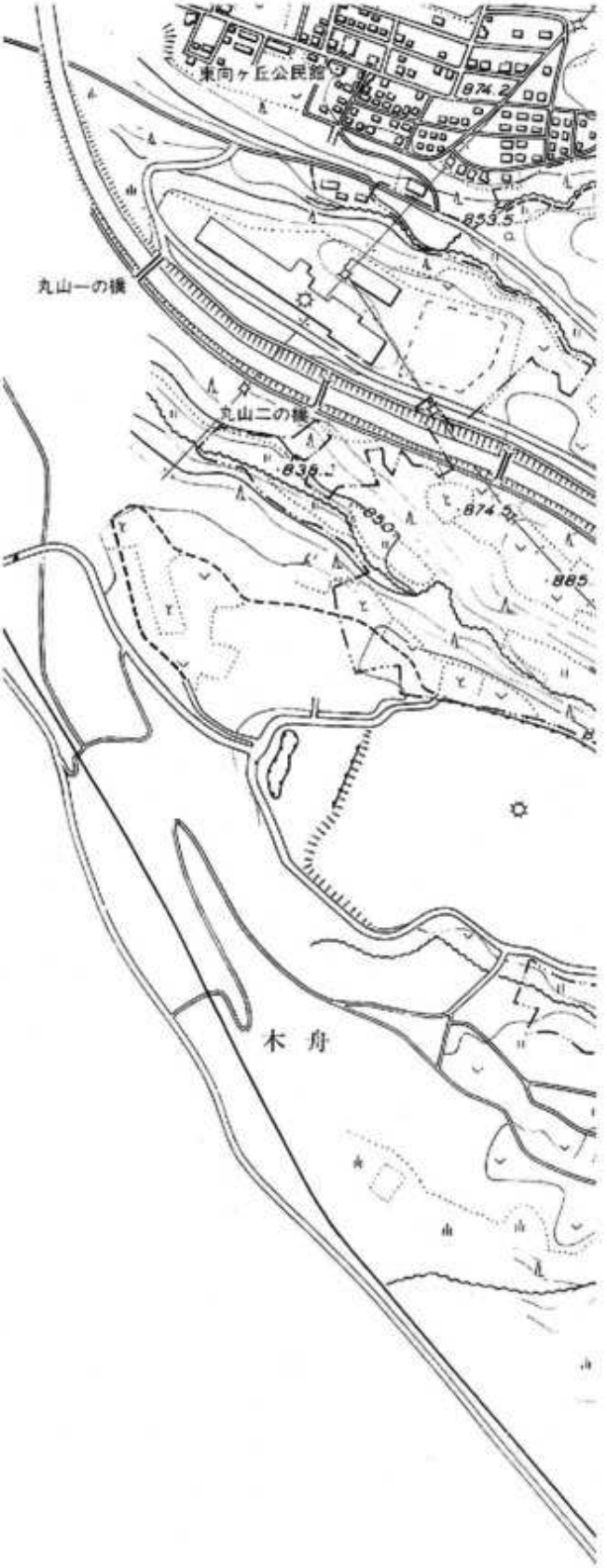
阿　久　遺　跡（第８次発掘調査）

平成７年度　送電線 JR 信濃境分岐線No.１～No.６間
鉄塔建て替え工事に伴う緊急発掘調査報告書

発行日　平成８年３月20日

発　行　原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印刷所　日本ハイコム株式会社


東向ヶ丘公民館
874.2
853.5
丸山一の橋
丸山二の橋
838
830
874.5
885
木舟